

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和 年 月 日

協議会名:	香取市地域公共交通協議会
評価対象事業名:	香取市地域内フィーダー系統確保維持国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>香取市では平成21年2月に策定した地域公共交通総合連携計画に基づき、市内の公共交通不便地域等の解消を図ってきた。</p> <p>小見川西地区においては、同計画に基づき実施した実証運行事業の成果を踏まえ、引き続き持続可能な運行を確保する必要があることから、小見川循環バスを継続して運行し、生活路線としての交通手段を確保することにより、公共交通空白地域の削減、縮小を図る。</p> <p>しかし、運行区域の中でも集落が分散している地区や道が狭隘な地区では、従来の大型車による路線定期運行では対応が困難になってきたため、デマンド交通の有用性や持続可能性を検証することなどを目的として、小見川中央・東・南地区において乗合タクシーの試験運行を実施した。その結果、有用性や接続可能性の検証ができたと判断し、本格運行へ移行し、公共交通空白地域の削減、縮小を図る。</p>

令和2年度 香取市地域公共交通会議 (千葉県香取市) (地域内フィーダー系統確保維持事業)



地域の公共交通等の現況

香取市は、平成18年3月27日に1市3町（佐原市・小見川町・山田町・栗源町）が合併して誕生した。県内第4位の広大な市域面積（262.35km²）を有し、東西約21.2km、南北約22.7kmと円形の地勢であり居住面積が市内全域に分散していることや、千葉県平均と比較して自家用車保有率・運転免許証保有率とも高く自家用車への依存度が高いことなどから、公共交通の利用者数は減少傾向にある。

交通計画の目指す概要／地域公共交通に関する施策・取組の概要

香取市では、循環バス・デマンド交通の運行、路線バスへの運行補助等を行っている。循環バスについては、合併以前の運行を踏襲しており、非効率に路線が重複している状況。デマンド交通については、導入当時（平成25年）の制度設計となっており、制度の見直しが必要。また路線バスについても、利用者が減少しており、赤字補てんでの運行維持となっている。これらの課題がある中、利用しやすい持続可能な公共交通体系を構築するため、公共交通網形成計画を策定予定である。

交通施策として実施した事業の全体像の概要

本年度進めている公共交通網形成計画の中で、公共交通拠点と各地域の連携強化による、利便性の高い公共交通網の構築を目指し、既存路線の再編に加え、公共交通拠点の機能強化、運行情報の効果的な提供などを事業として位置づけていく予定。

補助対象事業の概要

平成21年10月に導入した「小見川循環バス」は平成24年4月から本格運行として実施。東南ルート及び西ルートの2系統で運行していたが、平成25年10月からは東南ルートを休止（現在廃止）して、同ルートの運行区域においてデマンド型の乗合タクシーを運行している。

【コミュニティバス「小見川循環バス」
 事業者名：千葉交通株式会社
 運行系統：上の台経由、城山経由 計 26.5km
 運行日：月曜～金曜（土日曜日、祝日、年末年始運休）
 運行時間帯：6時25分～18時31分
 運行本数：8便／日
 運行車両：日野リエッセ（乗車定員37名） 1台
 運賃：大人300円、中高生100円
 小学生以下・障害者手帳所持者・・・無料
 回数乗車券・・・12枚綴り3,000円（大人のみ）

【デマンド交通「小見川乗合タクシー」】
 事業者名：京成タクシー成田株式会社
 運行区域：小見川中央・東・南地区
 運行日：月曜～金曜（土日曜日、祝日、年末年始運休）
 運行時間帯：8時～17時
 運行本数：9便／日
 運行車両：トヨタコンフォート（乗車定員5名） 2台
 運賃：大人400円、中高生200円、小学生100円
 障害者手帳所持者100円、介助者・未就学児無料
 回数乗車券・・・12枚綴り4,000円（大人のみ）

面積	262.35km ²	
人口（R3.1.1時点）	74,341人	
	15歳未満	6,735人
	65歳以上	27,169人
高齢化率	36.5%	
世帯数	31,156世帯	

交通計画の策定年月日

令和2年3月25日

協議会開催状況
 ○協議会の開催状況 4回開催
 ・第28回（R1.6.20）
 R2生活交通確保維持計画の協議等
 ・第29回（R1.10.15）、第30回（R1.7.24）
 佐原循環ワゴンの運行開始に係る協議等
 ・第31回（R2.1.27）
 R1生活交通確保維持計画の評価について等
 ・第32回（R2.3.24）
 香取市地域公共交通網形成計画の策定について

前回の事業評価結果の反映状況

利用者属性や実績の分析及び利用者との意見交換を行った結果を踏まえ、千葉県立小見川高等学校前にバス停を新設、ルート変更を実施した。
同校と意見交換を実施、協働での利用促進を行うことを確認した。

定量的な目標・効果

【評価指標・目標】

小見川循環バス:年間利用者数 15,100人

小見川乗合タクシー:年間利用者数 5,900人

小見川循環バスは、西ルート、城山ルートの利用実績及び利用者推移から設定した。

小見川乗合タクシーは、利用実績及び利用者推移から設定した。

【効果】

小見川地区に存在する交通不便地域の一部が解消され、高齢者等の日常生活に必要な移動手段が確保される。また、交通結節点である小見川駅と結び、鉄道等との効果的な連携を推進することで、地域間の活発な交流を促進し地域の活性化に寄与する。

目標・効果の達成状況

【小見川循環バス】 年間利用者数:9,930人 目標:未達成

- ・利用者減少の主な要因は、新型コロナウイルス感染症の流行による利用者の減少と推測される。
- ・上の台経由について、利用者が前年比の70%程度に落ち込み、城山公園経由も80%程度に減少している。
- ・小見川高等学校の休校措置により、R2.4～6月の利用者が前年比の1%程度に激減したことが最大の要因と考えられる。
- ・交通不便地域である小見川西地区の高齢者等にとって、日常生活に必要な不可欠な移動手段が確保・維持されている。

【小見川乗合タクシー】 年間利用者数:6,340人 目標:達成

- ・利用者増加の主な要因は、事業の認知、浸透によるものと推測される。
- ・交通不便地域である小見川東南地区の高齢者等にとって、日常生活に必要な不可欠な移動手段が確保・維持されている。

アピールポイント

循環バス利用促進策として、小見川高校生を対象にアンケートを実施、結果分析から、高校前にバス停を新設した。

併せて、利用促進事業への学生の参画を求め、高校側の理解を得た。官学協働による利用促進を計画している。

今後の改善点

【小見川循環バス】

安定した利用者数の確保を図る。城山公園経由については、小見川高校生を中心に利用促進を行う。

上の台経由については、新たな利用者獲得のためルートを栗源地区(旧栗源町区域)へ延伸、併せて輸送人数に見合った便数に再編する方針である。

【小見川乗合タクシー】

収支状況、社会情勢の変化を勘案し、料金等の制度見直しを行うことで収支率の向上を図る。また、民間タクシーとの役割分担を明確にし、運行区域の見直し等も今後検討していく必要がある。